

みずから**守**る

目指せ!おいかい博士!

クイズに
チャレンジ!



第1問

各市町村で作られている、大雨などによる
河川のはん^{らん}濫の危険性や避難^{ひなん}場所などを
示した地図のことを何というでしょうか。

A: ^{こうずい}洪水デジタルマップ

B: 洪水ハザードマップ

C: ^{ないすい}内水ハザードマップ



答え B: 洪水ハザードマップ

解説

洪水ハザードマップとは、浸水想定区域（洪水はん濫のときに想定される最大の浸水の範囲のこと）と想定される水深を表示した図面に、洪水予報などの伝達方法、避難場所、その他洪水のときに円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要なことなどを記載した地図のことです。内水ハザードマップは、側溝や下水道の排水能力がおいつかないなどの理由で、降った雨が地域であふれる場合の「都市浸水想定区域」を示した地図です。

あなたの住んでいる市町村では、洪水や内水に関するハザードマップが作られているのでしょうか。調べてみましょう。国土交通省ハザードマップポータルサイトで調べることができます。

第2問

さいがいようでんごん
災害用伝言ダイヤルの番号は
どれでしょうか。

A: 117

B: 171

C: 177



答え B:171

解説

災害が起こったときには電話をかける人が急激にふえるため、電話が通じにくくなります。災害が起きた場所に住む親せきや友達の無事を確認するために便利なのが、NTTが提供している災害用伝言ダイヤル「171」です。「117」は時報、「177」は天気予報の電話サービスです。

第3問

じゅうだい さいがい きけんせい
重大な災害の危険性がいちじるしく
高まっているときに発表されるのは
はっぴょう
どれでしょうか。

ヒント:平成25年8月30日から気象庁が運用を始めました。

- A: 特別警報
- B: 最大警報
- C: 嚴重注意



答え A: 特別警報

解説

気象庁は平成25年8月30日(金)に「特別警報」の運用を開始しました。気象庁はこれまで、大雨、地震、津波、高潮などにより重大な災害の起こるおそれがあるときに、警報を発表して警戒をよびかけていました。これに加え、今後は、この警報の発表基準をはるかに超える大雨、地震、津波、高潮などが予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼びかけます。

詳しくは気象庁ホームページを確認しましょう。

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/tokubetsu-keiho/>

第4問

人の命や建物などに被害が発生する災害ひがいが起これうなひなんときに市町村役場が避難ひなんを呼びかける情報じょうほうを発表します。全員の避難となるのは次のうちどれでしょうか。

- A**: 避難指示
ひなんしじ
こうれいしゃとうひなん
- B**: 高齢者等避難
こうせいちゅうひなん
- C**: 早期注意情報
そうきちゅういじょうほう



答え A: 避難指示

解説

避難への行動のレベルは、避難準備情報 < 避難勧告 < 避難指示の順に危険度が高くなります。避難情報は、市町村役場から発表されます。防災行政無線やサイレン、テレビやラジオ、インターネットなどで入手できます。

避難情報等 (警戒レベル)			
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保
~~~~~ < 警戒レベル4までに必ず避難！ > ~~~~~			
<b>4</b>	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示
<b>3</b>	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難
<b>2</b>	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報
<b>1</b>	今後気象状況悪化 のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報

出典：内閣府ウェブサイト

## 第5問

大雨のときの情報の集め方として、  
もっとも正しいのはどれでしょうか。

A: 家を出て、川や水路を見に  
行って確かめる

B: 市町村役場からの連絡を  
待つ

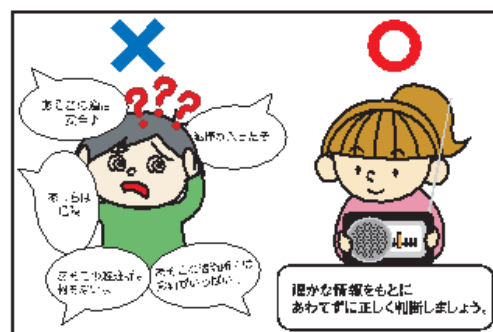
C: テレビやラジオ、  
インターネットで情報を集める



答え C: テレビやラジオ、インターネットで情報を集める

### 解説

テレビやラジオ、防災行政無線、サイレン、インターネットなどで確かな情報を自分で収集することが重要です。自宅や建物内での待機が困難な場合は浸水する前に避難しましょう。過去の水害では、田や水路の見回りに行って水路に転落して亡くなられたケースが毎年多く報告されています。大雨のときは川や水路に近づかないようにしましょう。



## 第6問

うみべ じしん  
海辺にいるときに地震が発生した場合、  
どのように行動したらよいでしょうか。

A: つなみけいほう ちゅういほう かくにん  
津波警報・注意報を確認して  
ひなん  
から避難する

**B:** 津波警報・注意報を確認せず  
たかだい  
速やかに高台へ避難する

C: ゆ  
揺れが小さければその場にそのままいてもよい



答え B:津波警報・注意報を確認せずに速やかに高台へ避難する

### 解説

津波から命を守るためには、地震発生から限られた時間の中で、速やかに避難することが重要です。海辺や海に近い場所で地震の揺れを感じたら、津波警報、津波注意報を待たずにただちに避難しましょう。海辺で遊ぶときには、高台を確認しておくようにしましょう。また、地震の揺れが小さいときや揺れを感じていなくても、津波が起きるケースもあります。津波注意報や津波警報が発表されたら、ただちに避難しましょう。

## 第7問

リュックサックの中に入れておいて  
非常時に持ち出せるようにしておくもの  
としてもっとも重要なのはどれでしょうか。

A: 避難所で退屈しないための  
おもちゃやマンガ

B: 情報を集めるためのパソコン

C: 懐中電灯やレトルト食品、救急セット



答え C: 懐中電灯やレトルト食品、救急セット

### 解説

日ごろから非常時の持ち出し品、備蓄品を準備しておきましょう。備蓄品(食料)は最低3日分、できれば7日分を準備しましょう。避難するときに両手が使えるようにリュックサックに荷物をまとめておきましょう。

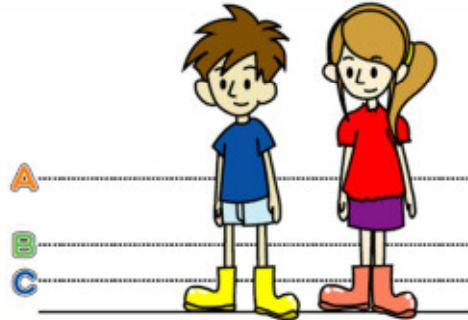
◆非常時の持ち出し品	※：非常持ち出し袋（リュックサックなど）に入れておくもの					
<input type="checkbox"/> 懐中電灯※	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ※	<input type="checkbox"/> 予備の電池※	<input type="checkbox"/> ロープ※	<input type="checkbox"/> ろうそく※	<input type="checkbox"/> 非常食※	<input type="checkbox"/> 飲料水※
<input type="checkbox"/> マッチ・ライター※	<input type="checkbox"/> ティッシュ※	<input type="checkbox"/> ビニール袋※	<input type="checkbox"/> 洗面用具※	<input type="checkbox"/> タオル※	<input type="checkbox"/> 下着類・衣類※	<input type="checkbox"/> 口腔ケア用品※
<input type="checkbox"/> 医薬品※	<input type="checkbox"/> 缶きり・栓抜き※	<input type="checkbox"/> キッチン用ラップ※	<input type="checkbox"/> 布製ガムテープ※	<input type="checkbox"/> 雨具・手袋	<input type="checkbox"/> 貴重品（現金、保証証など）	
～家族構成によって必要なもの～						
<input type="checkbox"/> 粉ミルク	<input type="checkbox"/> 紙おむつ	<input type="checkbox"/> 生理用品	<input type="checkbox"/> 高齢者や障害者のための常備薬や介護用品など			
◆備蓄品（食料関係）						
<input type="checkbox"/> 水	<input type="checkbox"/> 乾パンやクラッカー、缶詰め	<input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り・栓抜き	<input type="checkbox"/> レトルト食品			
<input type="checkbox"/> 鍋、水筒	<input type="checkbox"/> 卓上コンロ	<input type="checkbox"/> 粉ミルク、ほ乳びん（赤ちゃんがいる場合）				



## 第8問

水があふれて道路などが浸水した場合  
子どもが歩いて避難できる水の深さは  
どれくらいでしょうか。  
(水の流れが速くないとき)

- A: こし 腰
- B: ひざ 膝
- C: あしくび 足首**



答え C:足首

### 解説

子ども(小学校5～6年生を想定)が歩ける深さの目安は、20cm程度です。20cm以上になると歩行が困難になるというデータがあります。大人の男性で70cm、女性で50cm程度です。また、水の流れがあるときはより歩行が困難になることから、子どもやお年寄りがいる家庭ではより早めの避難が必要です。

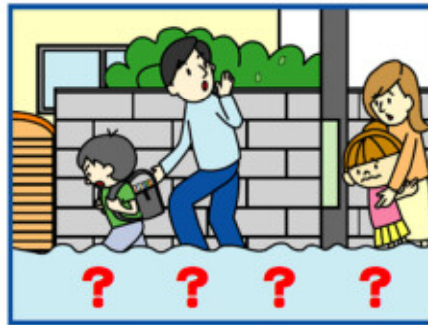
第9問

大雨や集中豪雨しゅうちゅうごううのとき、水の中を歩いて  
避難ひなんするときの履き物はものとして  
ふさわしいのはどれでしょうか。

A: スニーカー

B: 長ぐつ

C: サンダル



答え B:長ぐつ

解説

長ぐつやサンダルは、水に浸かったときにぬげやすく、とても危険です。  
避難するときは、ひもでしめられるスニーカーなど、ぬげにくいつをはきましょう。



第10問

自宅の床(50cmくらい)まで浸水^{しんすい}して  
います。あなたの家が2階建ての場合、  
どのように避難^{ひなん}しますか。

A: 避難所に避難する

B: 自宅の2階に逃げる

C: 警察署、消防署^{けいさつしょ しょうぼうしょ}に電話して避難の仕方をたずねる



答え B: 自宅の2階に逃げる

解説

水害のとき、すでに大人のひざの高さくらいまで水が浸かっていたら、自宅の2階に逃げるのが安全といえます。特に、避難所までの道のりが遠かったり、川の近くを通らないと避難所まで行けない場合には、無理に外に逃げず、自宅2階にとどまるのがよいでしょう。ただし、雨の状況には十分注意して行動するようにしましょう。災害が起こったときには電話をかける人が急激にふえるため、電話が通じにくくなります。警察署や消防署にたずねなくても、自分や家族で避難の仕方を判断できるよう日ごろから備えておきましょう。